

令和7年度

「運営に関する計画」

最終評価

大阪市立西九条小学校

令和8年3月

大阪市立西九条小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- いじめ⇒R6 認知件数は157件。根気よく聞き取り100%解消している。市いじめ対策基本方針の徹底。
- 不登校⇒R6は4名。うち2名は改善の兆候あり。学校の枠を超えた諸機関と連携した対応の継続。
- 暴力行為⇒対教師及び児童間はない。「学校安心ルール」の効果的な活用。
- 防災・減災教育⇒約9割の児童が知識を習得。訓練内容の工夫によるマンネリ化の打破。
- 全国学テ⇒昨年は市平均、全国平均を大きく上回る。基礎学力の定着が不十分な児童との2極化。
- 学力経年調査⇒全学年(3～6年)実施については、標準化得点を上回る学年や教科あり。
- 体力・運動能力(5年)⇒市及び全国を下回る。外遊びの充実を図る。
- ICTの活用⇒プログラミングや発表ツールの活用、調べ学習等の効果的な取組みは推進された。スキルも向上。
- 働き方改革⇒職務の分担が推進され長時間労働は改善傾向。持ち帰り業務でやりくりし、多忙感は常にある。

中期目標(概ね令和7年度末までに達成をめざす成果目標)**【安全・安心な教育の推進】**

- 学力経年調査の「学校のきまり・規範を守っていますか」について、「当てはまる(どちらかといえば当てはまる)」と答える児童の割合を95%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 学力経年調査で、実施する全学年において、すべての教科で大阪市標準化得点を上回るようにする。
- 体力・運動能力(3・4年)調査で、体力合計点を男女とも全国並にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において学習者用端末を毎日使用した児童の割合を100%にする。

学校評価アンケート(6月・1月)等からのR7年度の成果と課題、及び今後の取り組みについて

<きまり・規範>

- ・達成できていないとなっているが僅差。ただし、どのきまりができていないかを明確にし、なぜできないのか、どうしたらできるのかを具体的に意識させないと改善することは難しい。そのうえで、学級→学年→学校へと指導を引継いでいくとよい。
- ・代表委員会のあいさつ活動や、右側通行運動などで、意識する児童は増えてきているように思われる。

<学校生活>

- ・遅刻児童が多い。また、朝の時間がタイトすぎるため、朝会・集会の時は朝の時間だけで準備が終わらない。ゆったりと学習の準備時間としてもよいと思われる。その代わりに15分休憩などに、朝の行事をスライドさせるなどはどうか。

<学力>

- ・語彙力や文章を読み取る力の工場が必要ということが分かっている。また、日々の学習の中で復習の時間をどのように作っていくかなど、テーマを絞った全体研修の必要があるかもしれない。

<自分の意見の出し方>

- ・言い方の指導が必要ではないか。
- ・発言しやすい時間、ハンドサインやフリーディスカッション、スマールトークの時間など。
- ・「聞く」ことがきちんとできていないから自分の意見が考えられないのではないか。
- ・アンケートの際に、子どもたちがやっている発表活動に気づかせてあげながら回答させることも必要ではないか。どの児童も発表をしていない子はいない。

<生活面>

- ・早寝早起き朝ごはんなど規則正しい生活が70%台。学校だけでは難しい部分なので、保護者への働き掛けも重要になってくる。

(学習)

学習に対する姿勢、意欲の低下がみられる。自信を持って取り組めない子が増えている。特に高学年になればなるほど、顕著に表れている。

- 「授業で自分の意見を発表している」の肯定的回答が70%とあまり多くない。→発表の仕方を工夫。手を挙げて発表すること以外の意見の伝え方をしている場合も、このアンケートで肯定的な回答としてよいことを子供に伝える。
- 6月と1月を比べて、「授業で自分の意見を発表している」においては、肯定的に回答した児童の割合にあまり変化がなかった。発表の場を増やしたり、発表しやすい雰囲気をつくったりすることが必要。
- 「読書をするのが楽しい」に対して18.3%の児童が否定的に回答している。読書することを推奨する活動も実施されているが、各学級による読書習慣の定着を目指していくべき。

(家庭)

- 遅刻が多い児童や保護者に、時間を守る、ルールを守ることをもっと伝える必要がある。

(生活指導)

- 学校のきまり 肯定的91.9% 達していない。
 - ・右側通行名人の取り組み、とても良いと思う。
 - ・休み時間が始まったとき、廊下に飛び出してぶつかりそうになったことはまだある。教員の声掛けも徹底したいところ。
- 「きまり・規範を守っているか」は91.9%であり、90%以上は達成できている。

(教育課程)

- 時数の厳正な運用が求められることから、行事については慎重に考える。

1【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（小学校）

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。71.4%、79.5%、73.3%、77.8% 根気よく指導する必要性
- 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。減少↓
- 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。減少↓

学校の年度目標

- ① 学校アンケートにおける「地震や火災、不審者が現れたとき、どのような行動をとればよいかを知っている」について、肯定的な回答を97%以上にする。（令和6年度：95.9%）（令和7年度：96.8% 増加↑）
- ② 学級や学年、異学年での主体的な楽しい集会活動や児童会活動、交流会を実施することにより、学校アンケートにおける「学校へ行くのが楽しいと思う」の肯定的な回答を87%以上にする。（令和6年度：85.1%）（令和7年度：85.9%）

【安心・安全な教育の推進】

- ① ほぼ達成できている。アンケートの実施が1月の防犯訓練前日からだったため、目標値を上回っている可能性は高い。
防犯訓練を児童向けに実施したことで今後児童の意識向上につながると考えられる。
- ② わずかに届かなかったが、昨年度よりは上回っている。
「学校へ行くのが楽しいと思う」という設問と、集会・異学年交流が実際に直結しているのか、そのあたりを細かく分析できるアンケート項目にすることで、より実情に応じた改善などができるのではないだろうか。
アンケート項目や学校の年度目標の文言に変更を加える必要があるかもしれない

2【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（小学校）

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を40%以上にする。50.0%、24.7%、41.7%、35.8% 達成できていない学年あり
- 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント向上させる。
- 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を男女ともに70%以上にする。64.3%、61.7%、68.3%、71.2% 未達成

学校の年度目標

- ① 学校アンケートにおける「体育の時間や休み時間には進んで体を動かしている」について、肯定的な回答を80%以上にする。（令和6年度：76.1%）（令和7年度：82.8%）
- ② 学力経年調査において、3年～6年いずれも大阪市標準化得点を上回るようにする。（3年国語、5年生全教科）

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ① 82.8%と目標を上回っているので達成できている。
なわとびや西九条サーキットなどもうまく定着してきている。
- ② 一部のみ、すべての学年で上回るという結果にはならなかった。
朝学習の定着や、日々の学習の中で復習の時間をどう作っていくかが重要かと思われる。

3【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（小学校）

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の70%以上にする。
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間上限に関する基準2を満たす教職員の割合を85%以上にする。

学校の年度目標

- ① 学習者用端末を活用した授業や家庭学習を毎日実施する。
- ② ゆとりの日を週に1回設定・実施し、月の残業時間45時間以上の教職員の割合を前年度より減少させる。

【学びを支える教育環境の充実】

- ① かなり習慣化できている。毎日学校と家庭とで100%の児童が学習者用端末を活用できている。
- ② 早く帰宅することが定着し、目標は達成できている。早出や持ち帰りはある。

大阪市立西九条小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>全市共通目標(小学校)</p> <p>○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。</p> <p>○年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。</p> <p>○年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。</p> <p>※ 前年度不登校であった児童のうち不登校の状態が解消された、または不登校状態であっても次の1～3に該当しているなど、総合的な判断により不登校の状態が改善されたとする人数を把握</p> <p>※ 改善とは、次の状態の場合をいう。(複数に該当する場合は、最も顕著な項目を選択する)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 出席日数の増(学校内外でICT等を活用した学習活動を行うことによる出席認定含む) 2 ICTの活用による、本人・保護者と学校がつながる回数が増えた。 3 養護教諭、スクールカウンセラー、教育支援センターなど学校内外の専門的な指導・相談につながるようになった。または、継続してつながるようになった。 <p>学校の年度目標</p> <p>学校アンケートにおける「地震や火災、不審者が現れたとき、どのような行動をとればよいかを知っている」について、肯定的な回答を97%以上にする。(令和6年度:95.5%) (令和7年度: 96.8%)</p> <p>② 学級や学年、異学年での主体的な楽しい集会活動や児童会活動、交流会を実施することにより、学校アンケートにおける「学校へ行くのが楽しいと思う」の肯定的な回答を87%以上にする。(令和6年度:85.1%)</p>	<p>B</p> <p>85.9</p>

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>盲導犬、点字についての学習やアイマスク、車いす体験、パラスポーツなどの体験を通して、ちがいに気づき、そのちがいを認め合い、互いのちがいが学校や社会の豊かさにつながることを理解する。</p> <p style="text-align: right;">(いじめへの対応・人権を尊重する教育の推進・インクルーシブ教育の推進)</p>	<p>A</p>
<p>指標</p> <p>手話や点字についての学習や車いす、アイマスク、パラスポーツなどの体験を行う。</p> <p>互いの違いを認め合える集団目指して、各学年、計画通り学習できた。ボッチャは、ゲストティーチャーにも来ていただいたり、大会を経験したりして、パラスポーツの特性を学べた。</p>	
<p>取組内容② 【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>南海地震を想定した防災計画を立て、実践的な避難訓練を実施したり、不審者侵入や交通事故を想定した体験的な防犯訓練や交通安全学習を行ったりしながら、命と安全を守るための主体的な行動ができるようにする。</p> <p style="text-align: right;">(防災・減災教育の推進・安全教育の推進)</p>	
<p>指標</p> <p>区役所や警察署と連携した防災計画の策定や、防災訓練及び交通安全教育を実施する。</p> <p>4月に計画策定。その後、警察と連携し、年間の実践を打合せする。</p> <p>4月・10月の避難訓練。6月のAlsok 出前授業および11月の警察出前授業。</p> <p>7月に教職員向けの防犯訓練、1月に児童向けの防犯訓練と校区の安全啓発動画の作成。</p> <p>また、懲戒などでの交通安全指導など、全方位に跨ってこれからの基盤となる実践をすることができた。</p>	<p>A</p>
<p>取組内容③ 【基本的な方向1 安全・安心な教育活動の実現】</p> <p>学級や学年、異学年での児童の主体的な集会活動や児童会活動、学校行事、交流会を実施し、児童の自己肯定感や自己有用感を高め、安全で楽しい学校生活を送れるようにする。</p> <p style="text-align: right;">(いじめへの対応・不登校への対応)</p>	
<p>指標</p> <p>学校評価アンケート「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を87%以上にする。</p> <p>目標の達成はできていないが、前年度に比べ0.8%上がっている。異学年交流については、児童会活動(なかよし班活動、なかよし清掃、ふれあい祭りなど)や児童集会でやっている。</p> <p>ただ、児童が異学年交流と学校評価アンケートの「学校に行くのは楽しいと思いますか」という内容をつなげて考えているかという点については疑問が残る。アンケート項目に、追加質問を加えることで取組内容が達成されているかをさらに正確に見ることができると考えられる。</p>	

大阪市立西九条小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標(小学校)</p> <p>○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「あてはまる」と回答する児童の割合を 40%以上にする。達成3年50% 5年41.7% (4年24.7% 6年35.8%)</p> <p>○小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント向上させる。伸びてはいる 国語 × (後述) 算数 × (4年0.2P 5年1.8P 6年0P UP!!)</p> <p>○小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 70%以上にする。6年以外達成</p> <p>○小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 70%以上にする。6年のみ</p> <p>学校の年度目標</p> <p>① 校内アンケートにおける「体育の時間や休み時間には進んで体を動かしている」について、肯定的な回答を80%以上にする。(令和6年度:76.1%) 82.8%</p> <p>② 学力経年調査において、3年~6年いずれも大阪市標準化得点を上回るようにする。5年のみ</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>授業研究会や研修会を年間計画に基づいて実施し、授業研究後の協議会や研修会を通して教職員の授業力向上を図り、児童の主體的・対話的で深い学びを実現する。</p> <p style="text-align: right;">(「主體的・対話的で深い学び」の推進)</p> <p>夏休みと冬休みの課題に主體的に取り組めるような教材の工夫を図る。</p> <p style="text-align: right;">(思考力・判断力・表現力等の育成)</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 年間計画に基づいて、校内授業研究やすべての教員が年1回以上授業公開を実施し、協議会の形を工夫しながら指導力向上のための研修に取り組む。 児童が主體的に取り組めるような課題を設定し、思考力・判断力・表現力の育成を図る。 <p>○一人一授業も残りの方がわずかになってきており、実施されている。しかし共有の在り方を見直さないと実りが少ない。(原則学年は参観か視聴をする)</p> <p>○国語科の実践は、多様な問いにこだわった実践をしていただき、次年度に生かしていきたい。協議会はICTを活用してよりみんなの意見が反映できる形も検討している。</p> <p>○経年の分析はこれからのだが、同一集団の前年度との比較ではどの教科でもポイントを増やしている学年が多い。国語科では5年1.7ポイント、6年1.3ポイントと伸びがみられる。4年は-0.2ポイント)</p> <p>○市平均との比較は3年と5年で市平均をわずかに上回った。(3年0.5P 5年2.3P)各学年を合計すると、国語科+0.8ポイント、英語+0.2ポイントと越える教科もあった。また、市平均との差を前年度と比較すると国語科+1.2ポイント、英語科+5.3ポイントと改善がみられる。(算数はほぼ横ばい、社会科-2.5ポイント、理科-1.2ポイント)</p>	B
<p>取組内容② 【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>なわとびやかけ足の強化週間等を設けるなど、基礎運動能力の向上を目指した活動を通して運動意欲や体力の向上を図る。</p> <p style="text-align: right;">(体力・運動能力向上のための取組の推進)</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> なわとび週間やかけ足週間などの運動週間を設定する。 シナプソロジーを体育科等の導入部分に取り入れたり、基礎運動能力を高めるトレーニングを取り入れたりする。 <p>○校内アンケートにおける「体育の時間や休み時間には進んで体を動かしている」において肯定的な回答82.8%達成している。</p>	A

大阪市立西九条小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>全市共通目標(小学校)</p> <p>【ICTの活用】</p> <p>○授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の70%以上にする。 93%</p> <p>【職員の働き方改革】</p> <p>○第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を85%以上にする。 90.32%</p> <p>学校の年度目標</p> <p>①学習者用端末を活用した授業や家庭学習を毎日実施する。</p> <p>②ゆとりの日を週に1回以上設定・実施し、月の残業時間45時間以上の教職員の割合を前年度より減少させる。</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】</p> <p>1人1台の学習者用端末を効果的に用いて、多様な子どもの個性や状況に応じた学びを推進する。</p> <p>プログラミング教材等の機器を活用し、複雑な情報を論理的に読み解く力や、「プログラミング的思考」の育成を目指す。</p> <p style="text-align: right;">(ICTを活用した教育の推進)</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習者用端末を活用した授業や家庭学習を毎日実施する。 ・発達段階に合わせたICTカリキュラムの中で、プログラミング授業を全学年で実施する。 <p>学習者用端末は学年の発達段階に応じてスキルを身に付けさせ、授業や家庭学習で毎日活用することができている。</p> <p>年度当初に設定した「ICTカリキュラム」に則り、プログラミング授業を全学年で行った。</p>	A
<p>取組内容② 【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>1カ月の時間外勤務時間が45時間を超えないように、管理職が職員の時間外勤務時間の状況を把握し、適切な措置ができるようにする。</p> <p style="text-align: right;">(働き方改革の推進)</p> <p>指標</p> <p>1カ月の時間外勤務時間が45時間を超える職員を2割以下にする。</p> <p>令和7年度の5月以降、すべての月において平均時間外勤務時間は昨年度より減少しており、1カ月の時間外勤務時間はほぼ24時間で、1日約1時間の時間外勤務時間となっている。月に45時間を超える職員は6%で、2割を大きく下回り改善できている。</p>	A
<p>取組内容③ 【基本的な方向8 生涯学習の支援】</p> <p>図書館主任と学校司書が連携を深め、学校図書館が読書の推進だけでなく、教科学習及び全ての教育活動で効果的に活用できるようにする。</p> <p style="text-align: right;">(「大阪市子ども読書活動推進計画」に基づいた取組)</p> <p>指標</p> <p>OneBook選定の取り組み、読書貯金通帳、おすすめの本の掲示などの読書を支える活動や、読書ボランティアと連携した各学級年間20回の読み聞かせの実施、並びに新聞を活用した調べ学習等の推進を図る。</p> <p>学校司書と連携を取り合い、児童の声を生かした選書や時事的なトピックに関するコーナーを作っていたりなど、読書活動の推進に努めている。図書委員会の児童が「本を読むとこないいいことがある」とスライドにまとめ、低学年の教室に伝えに行ったり、読書週間には読み聞かせをするなど活動の幅を広げている。学校アンケート「読書が楽しい」で肯定的な回答をする児童の割合も81.7%と6月よりも増えている。読書ボランティアによる読み聞かせも各学級年間20回のペースですすめられ、1月には都島区のお話サークルによる「おはなし会」も実施した。また、校内のNIEカフェに5大紙や小学生新聞を常置し、日々の学習に活用している。</p>	A